演目の説明

塵輪（じんりん）

第 14 代仲哀（ちゅうあい）天皇の頃、塵輪という身に翼が生えて黒雲に乗って自由に空を飛ぶ大悪鬼が数万の軍勢を引き連れてわが国に攻め寄せてきました。皇軍は、塵輪が空から射かけるために苦戦し、多くの兵が討たれます。そこで、ついに仲哀天皇自ら御神徳のある弓矢を手に取り、塵輪を見事に射落するというストーリーです。（※塵倫とも表記される場合があります。）

見どころ

天皇自ら国家安泰にため命をかけて戦った迫真の物語、神と鬼が激しく対決する石見神楽、芸北神楽を代表する演目の一つです。